

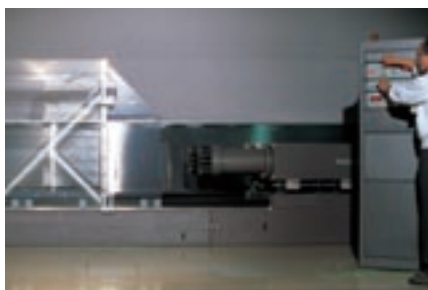
流通

従来、物流(流通)は、お客様に製品をお届けする「動脈物流」と、お客様から使用済みの包装や製品を回収する「静脈物流」と別々に考えられていました。リコーグループでは、リユースできる包装材の開発などにより、受注から納品までのリードタイムの短縮を図るSCM(サプライ・チェーン・マネジメントシステム)の構築、さらには回収物流の効率化までを推進。「動脈物流」と「静脈物流」をトータルにとらえることで、物流全体の効率化と環境負荷削減を推進しています。リコーグループの物流を担うリコーロジスティクス(株)では2000年12月にISO 14001を取得しました。

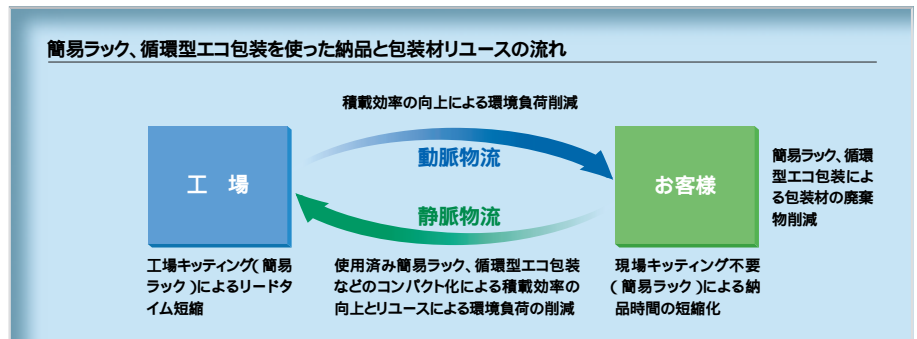
製品および包装材の強度試験

包装材を削減するためには、製品が輸送途中で壊れないようにするため、製品そのものの適正強度を確保することも必要です。リコーのリサイクル対応方針*には製品強度試験が義務づけられており、評価テストは、水平衝撃試験装置や振動試験装置など、最新の試験装置を備えたP.R.E.Lab(製品堅牢性評価ラボ)で実施されています。リコーのP.R.E.Labは、日本のメーカーでは初めてのISTA(International Safe Transit Association)の公認施設で、ここでの測定結果は国際的に認められます。

* 39ページを参照。



製品の適正強度テスト



リユースできる包装材の開発

リコーは包装材の環境負荷削減のために、1994年に、段ボールを主体にリサイクル可能な素材を98%使用した「エコ包装」を開発。2000年には、これをさらに発展させ、再生プラスチック材などを使用し、リユースが可能な「循環型エコ包装」を開発しました。また、パイプ材を用いた「簡易ラック」も開発し、大口のプリンターなどの納品に使用しています。海外の各種では、トナーカートリッジの包装の簡易化・コンパクト化を推進しており、納品時だけでなく回収時の環境負荷削減にも貢献しています。



1994年に開発した「エコ包装」と2000年の「循環型エコ包装」



パイプ材を用いたリユースできる「簡易ラック」

簡易ラックの導入によるトータルな物流の効率化

プリンターを導入されるお客様に対して、従来は、本体とオプションを別々に出荷・納品し、その都度仕様に合わせて組み上げて

いました。パイプ材を用いた「簡易ラック」は、製品の外觀寸法の変更にも柔軟に対応できるだけでなく、何度もリユースできるため、輸送時に包装廃棄物が出ないことが大きなメリットです。リコーは、オプション装着などのキittingを工場で行うとともに、販売会社がキitting内容を入力すれば、工場オプション手配・見積算出・生産計画の立案ができるデータベースを構築。環境負荷削減とともに、受注から納品までのリードタイムを大幅に短縮することに成功しました。

輸送時の環境負荷削減

リコーグループの動脈・静脈物流の中核を担うリコーロジスティクスでは、16台の低公害車(天然ガス車)を導入*。このうちの3台には、納品・回収の効率を向上させるために独自のターンテーブルを搭載しています。また、運転品質を高めるための省エネ運転教育をはじめ、輸送ルートの見直し、アイドリングストップのためにドライバーの休憩室を設置するなどきめ細かな活動を展開しています。

*2001年5月18日現在。今後も社会インフラの整備に合わせ、積極的な導入を計画しています。



天然ガス車